

## 絶対の孤独と箱庭

森下 温美 ( 関西医療学園 )

## I. はじめに

深い孤独は自己実現へのパスポートかもしれないが、年端もいかなない子どもにも容赦なく襲いかかる危険性がある。不安なところを健気にコントロールしながら脚下照顧する過程に寄り添うことができたので、その再生のメカニズムを考察したい。

## II. 事例の概要

クライアント (以下 CI と表記) は母親と弟と共に DV シェルターに入所してきた小学校一年生男児である。専門家からさえも不適切な評価にさらされるという酷い二次被害の犠牲者であったが、箱庭を制作するなかで集合的無意識に潜む普遍的な秘策を発見し、短期のうちに自己を取り戻すことに成功した。

## III. 事例の流れ

# 1 箱庭① じゃんけんので勝ったので一番乗りできたと報告。箱庭内で現在位置を確認し徐々に自由を回復しはじめると、新しい時間が流れ始めた。古い問題を押しつけ未来予想図が表現されるとおとなしいながらも誇らしげに他児たちに披露した。

# 2 箱庭② 着想から完成まで逐一セラピスト (以下 Th と表記) に報告しながら作製する。大事なものが零れ落ちないようにとの配慮や結末の不思議さの予見など興味深い内容を繊細に作りこむうち、兄弟葛藤が表現された。希望の領域に息を吹きかけ、電車に栄養を与えると、馴染みのある場所には「バイキン城」が出現した。CI に要請されて入室した母親が感慨深げに鑑賞していたのは印象的だった。

# 3 箱庭③ ②の電車に「これ以上入れたら爆発する」量のエネルギーを備給するものの最終的には全く違う方法で問題を越える表現をし、網については設置により影もついて来るが、大きく変身する自分を予感していた。密かに取りに行かねばならない宝物を表現する一方、現実の問題を Th に報告し始める。

# 4 箱庭④ 漠然とした不安な気持ちを言語化しつつも、何はともあれ池や川を綺麗にすれば、その中に自分が映ると Th に説明しているうちに山が出現した。山には砂がたっぷりあることを発見した喜びを Th と分かち合おうとする様子からは、工事中である現状を楽しむ余裕が感じられた。

# 5 箱庭⑤ ②の兄弟葛藤を夢を交えて Th に報告するなかで克服したあと、CI が表現したのはいじめっ子がかつて表現したモチーフだった。CI が知る由もない不思議な因縁が勇気を与

えたのか、現実の行動を少し後押し、新入の子どもたちに優しく声をかける様子も観察されるようになった。

# 6 箱庭⑥ 短期間に対人関係における様々なことを学習し逞しくなった CI の様子に母親は元気づけられたようだった。きれいな池をつくと、修理の必要があると思いこんでいた電車が実は充分走れると判明、直観が活発になった自覚もより活き活きし、最初は緊張したが発見の楽しさを経験できたと饒舌に説明すると、大樹の陰の犬が「影にあたって気持ちいい」と言う。この犬は誤解されていたらしい。最後は Th を叱咤しつつ共同で金の鎖を張りながら世界を変化させるのだと意気込む。

# 7 箱庭⑦ 四隅から始まり全体に銀河のようなジャパブルーのビーズが美しく撒かれた宇宙的表現がなされた。信号は「信号らしくな」り、井戸と繋がった橋も頑丈に変化した。弟の態度もまた大きくなったと報告するが、すでに関知しないところの様子だった。「いろんなこと考えて (造って) る」と言語化しつつ山や天国を表現できると、こんな楽しさをみんなにも分けてあげたいと言い、Th には上から見るように勧める。CI 成りの平和の哲学は箱庭の中で昇華したらしかった。

# 8 箱庭⑧ 最後と意識して静かに集中して取り組む。にこっとしながら「きいりんさん」と言って金の鎖を置いた。パンダの親子のいる動物園とレストランを造り、これからのことを少し話すと、さらりと振り切るように退室していった。

## IV. 考察

非暴力は、人類共通の根源的にして普遍的な高いハードルである。古事記において象徴的に表現されるわが国の平和と向上の哲学が歴史的な流れのなかで生みだしたじゃんけんの法則に自らを絆し、一貫して自らを無にする努力を重ねた CI は、まるで仏教における宝網のように美しくも有り難いセーフティネットに掬われ、易思想における隠されがちな根本神である麒麟と高らかに「天上天下唯我独尊」とでも宣言しているようなパンダを置いて去っていった。深い孤独は 7 歳児をも哲人に変える。そして一貫して日本的であるように感じられる思索の跡は、かつてユングやカルプらがわが国に寄せた関心そのものでもある。この現実を加味することは容易なことではないが、その努力を開始することでわが国の箱庭療法研究はとりあえずスタート地点に立つことができるのではないだろうかと思われる。